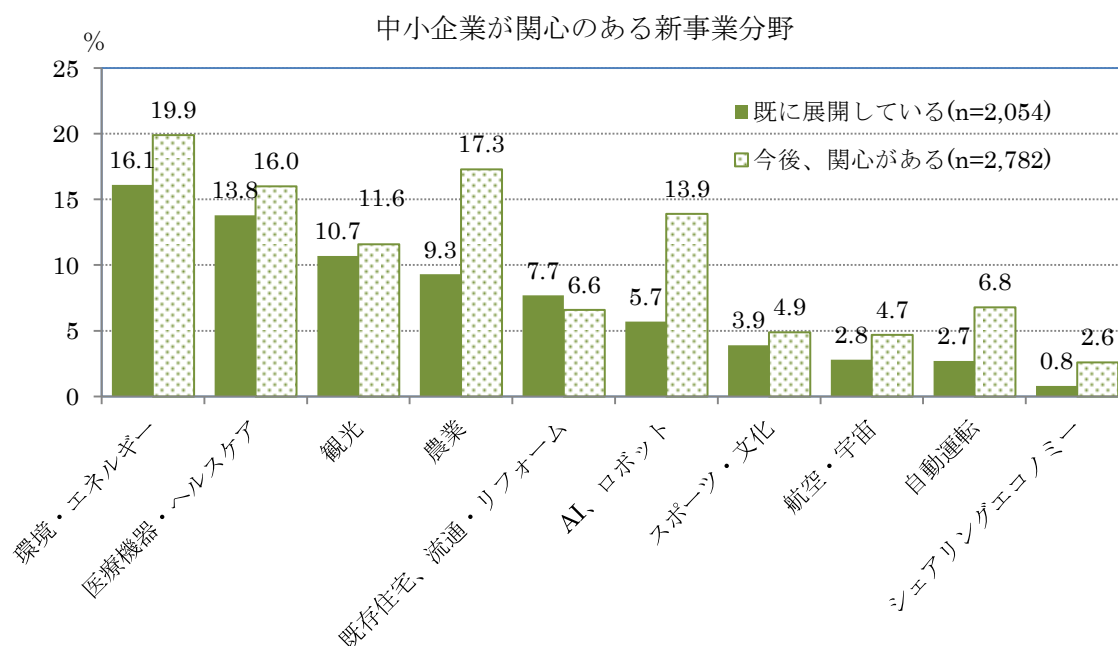


## 17年版白書にみる中小企業の新事業への取り組み

### ◆白書が成長のための中小企業の新事業への取り組みを報告

2017年4月に中小企業白書（17年版白書）が発表された。この白書では、「中小企業の景況は緩やかな改善傾向にあるものの、新規開業の停滞や生産性の伸び悩み、経営者の高齢化や人材不足といった構造的な問題が進行している。このような状況の下では、起業や創業による革新や既存企業の成長を通じて事業や経営資源を次世代に円滑に引き継ぐことが重要」としている。そして、既存企業が成長するために取り組む新事業についての調査結果を報告している。この報告を基に、企業が今後取り組む新事業について考えてみた。

まず、中小企業が関心のある新事業分野では、既に展開している分野として環境・エネルギーの割合が16%と最も高く、医療機器・ヘルスケア（14%）、観光（11%）が続いている。今後、関心がある分野でも環境・エネルギーの割合が20%と最も高いが、これに続く分野では農業（17%）が医療機器・ヘルスケア（16%）を上回っている。また、AI、ロボット（14%）、自動運転（7%）などの最新の技術を利用した分野への関心が高くなっている。



注：複数回答のため、合計は必ずしも100%にならない。  
出所：中小企業庁「17年版中小企業白書」

◆製造業の医療機器・ヘルスケア分野での取り組みでは成功事例も出てきている

17年版白書は新事業に取り組む事例も紹介している。製造業では、医療機器・ヘルスケア分野の事例として、防錆用メッキ加工で培ったミネラルの活用技術を応用して新事業を始めた日東電化工業の事例を紹介している。日東電化工業は、ミネラルの肌への有効性を探求し、独自の化粧品ブランドを立ち上げた。その売上高は今や全売上の18%を稼ぐまで成長している。

AI、ロボット分野の事例としては多田精機を紹介している。多田精機は、樹脂成形用の金型にセンサーを搭載し、温度や圧力の変化から成形状態をモニタリングする「スマート金型」を開発した。この金型や関連技術を活かした保守サービスや製造条件のコンサルティングなどを今後、新事業として検討している。

◆新事業として関心の高い分野には参入の容易さ、リスク・リターンに差がある

17年版白書を見ると、医療機器・ヘルスケア分野で紹介する事例は既に新事業を展開し、成功を収めているのに対して、AI、ロボット分野で紹介する事例はこれから新事業を始める段階にとどまっている。これは、環境・エネルギーや医療機器・ヘルスケアなどの分野は、既に新事業として展開を始めている企業が多いのに対して、農業やAI、ロボット、自動運転などの分野は企業の関心が高いものの、新事業として展開し、成功を収めている事例がまだ少ないからである。

勃興、成長、成熟、衰退といった産業の発展段階に着目して環境・エネルギーや医療機器・ヘルスケアを見ると、これらの分野は勃興から成長の段階に移りつつある。成功事例など、参入を検討する際に必要な情報も集めやすい。ただ、新事業としての企業の関心も高いことから、今後も新規参入が盛んに行われ、厳しい競争、淘汰を繰り返しながら、成熟、衰退の段階に進んでいくと考えられる。そのため、参入リスクは小さくなってきたが、成功の見返りも小さくなっている。

一方、農業やAI、ロボット、自動運転などの分野は産業としてはまだ勃興の段階にある。新事業として参入する際に必要な情報も集めにくいことから、成功の見通しも立てるのは容易でない。その反面、いち早く他社にないノウハウや技術を確立し、成功を収めることができれば大きな成果を得るハイリスクハイリターンな分野である。個々の企業が新事業を検討する際は他社の関心だけでなく、こうした発展段階の違いによるリスク・リターンも考えておきたい。【藤井和則】